

**囲碁・将棋チャンネル 番組審議会資料**  
**(第 25 回、令和 8 年 3 月 30 日開催)**

**1 開催年月日:**令和 8 年 3 月 30 日(月)

**2 開催場所:**私学会館 アルカディア市ヶ谷(4 階 鳳凰の間 西)

**3 審議委員:** 7 名(出席 6 名、書面参加 1 名)

**【出席委員】**

朝比奈豊(株式会社毎日新聞社 名誉顧問)

足立盛二郎(元公益財団法人日本棋院理事、元ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長、  
日本郵政取締役)

音 好宏(上智大学 文学部 新聞学科 教授)

中村幸雄(オフィス・サンライズ 代表、損害保険ジャパン日本興亜株式会社 顧問、  
元株式会社損害保険ジャパン 代表取締役専務・監査役)

吉原由香里(囲碁棋士／公益財団法人日本棋院理事)

清水市代(将棋女流棋士／ 公益社団法人日本将棋連盟 会長)

**【書面参加委員】**兵頭俊夫(東京大学 名誉教授)

**【放送事業者側出席者】**

今井 環(取締役会長)、山口哲史(代表取締役社長)、寶諸祐一(取締役副社長)

岩田建一、望月陵、丸山啓太(以上編成部)

**4 議題**

**(1) 2 番組の審議**

「日中韓女子囲碁リーグ 頂上決戦 ダイジェスト」(囲碁)

(2026 年 2 月 21 日 初回放送)

「藤井聡太王将×西山朋佳女流王将～ 特別記念対局 2025～」(将棋)

(2025 年 8 月 11 日 初回放送)

**(2) その他の番組・特別編成などのご紹介**

8 月)「藤井聡太王将×西山朋佳女流王将～ 特別記念対局 2025～」を放送

「第 4 回 テイケイグループ杯レジェンド戦」を生放送

9 月)「第 73 期 王座戦 」第 1 局～第 3 局を生放送

「ALSOK 杯 第 75 期王将戦」挑戦者決定戦のリーグ戦の様態を放送

10 月)「第 4 期新竜星戦」を放送

「第 73 期 王座戦 」第 4 局～第 5 局を生放送

「ALSOK 杯 第 75 期王将戦」挑戦者決定リーグ戦の様態を生放送

「霧島酒造杯 第 47 期 女流王将戦」の様態を生放送

- 11月)「ALSOK杯 第75期王将戦」挑戦者決定リーグ戦の様を生放送  
「第29期 ドコモ杯女流棋聖戦」を放送
- 12月)「第34期 竜星戦」決勝戦を放送  
「第33期 銀河戦」決勝戦を放送
- 1月)新年の特番として、「藤井聡太一挙放送」を8時間一挙放送  
「一力 遼一挙放送」を11時間一挙放送  
「第5回 テイケイグループ杯 女流レジェンド戦 決勝」を生放送  
「ALSOK杯 第75期王将戦」第1局～第2局を生放送
- 2月)「ALSOK杯 第75期王将戦」第3局～第4局を生放送  
「第2回 日本女子囲碁リーグ」Li LEAGUE を放送  
「日中韓女子囲碁リーグ 頂上決戦 ダイジェスト」を放送
- 3月)「銀河戦 10代新四段特別対局 2026」を放送  
「竜星 vs 銀河 頭脳バトル 2026」を放送  
「ALSOK杯 第75期王将戦」第5局～第7局を生放送

## 5 審議内容

### (1)【囲碁】「日中韓女子囲碁リーグ 頂上決戦 ダイジェスト」に関して

#### (委員の意見)

- ・ 日中関係が厳しい中、日本の棋士が現地で大歓迎を受け、休み時間に指導碁などの貢献活動を行う文化交流の姿は非常に素晴らしく、勝負以前にぜひ続けてほしい活動である。
- ・ 北東アジア 3カ国が文化交流の場でやり取りをすることは有意義であり、日中韓連絡事務所等と連携することでさらに活動が展開できるのではないかと。
- ・ 普段の世界戦には出られない初段クラスの若手が出場できる貴重な機会となっており、今後とも残してほしい。
- ・ 対局の棋譜だけでなく、前夜祭や踊り、棋士の立ち振る舞いなど盤外の様子がしっかり織り込まれており、「観る将」ならぬ「観る碁」ファンにとっても非常に面白かった。  
盤を離れた選手たちが、他国の選手とも仲良く楽しそうに交流している様子が映像で伝わり新鮮だった

### (2)【将棋】「藤井聡太王将×西山朋佳女流王将～ 特別記念対局 2025～」に関して

#### (委員の意見)

- ・ 持ち時間に差(10分と60分)があり西山女流王将が有利な状況でも、中盤の勝負どころから隙を見せずに淡々と勝つ藤井王将の強さが改めて分かる番組だった。
- ・ 持ち時間のハンディキャップの差がどう効いたのかが少し分かりにくかったため、解説で触れたりAIの表示を入れるなどして伝わるとより良かった。
- ・ 10分と60分という「下駄を履かせる」ような扱いは今の時代に合っておらず、男女で差をつけるより最初から平手(同条件)で対戦した方が気持ちが良い。

- ・ 持ち時間が長い方が有利に見えるが、相手が考えている時間に自分も考えることができるため、対局者の体感としてはそこまで大きな差ではないかもしれず、平手でやっても魅力がある

### (3)その他

(委員)AI の評価値が「全能の神」のように受け取られるのはおかしく、人間が人間の力だけで戦うところに感動が生まれる。数字が目立つ画面はいかかなものかと思い、表示を消せる機能などがあると良い。

(委員)将棋と違い、囲碁の AI 評価値は終盤で極端(1 対 99 など)になりやすく、見る気を損ねる部分もあるため見せ方に工夫が必要である。

(委員)子供向けの普及としてアニメは非常に有効であり、「3 月のライオン」を入り口にして子供大会へ繋げていく取り組みは良い。囲碁も「ヒカルの碁」などを放送してほしい。

(委員)トッププロの記憶力と構想力(想像力)の凄さを改めて感じた。

王将戦の七番勝負などで、なぜ勝てなかったのか、なぜ勝つのかなど、対局の裏側や心理戦を分析するドキュメンタリーのような番組があると面白い。

(放送事業者) 昨今増えている「観る将」ファンからは、次にどこを指せばどうなるかを示す AI の評価値や候補手の表示が求められており、それが将棋の面白さを伝える補助になっている。その一方で、昔からのファンからは不要だという声があることも承知しており、「どこまで放送でそれを表現するかは我々の課題」である。また、将棋と囲碁での評価値の出方の違いは、囲碁は終盤で少しの差が「1 対 99」といった極端な数字になりやすく、それが視聴者の見る気を損ねてしまう可能性があるため、特に囲碁における見せ方は検討していきたい。

## 6 「4 月番組改編」のご紹介

- ・ 4 月からの番組改編における 3 つのコンセプトについての詳細。

1. 視聴者のルーティン化の定着とベース視聴率の向上
2. ゴールデンタイム(18 時～22 時)の強化による幅広い視聴者の獲得
3. 日曜日「自由枠」の設定による柔軟な生中継対応

また、これらのコンセプトを実現するため、一日の時間帯をより見やすく分かりやすい枠を設けて編成を行なう。

8 時～11 時:新作枠の再放送(見逃してしまった視聴者向けの対応)

12 時～18 時:セレクション枠(囲碁・将棋チャンネルが選定した対局番組などを紹介)

18 時～22 時:新作枠(前述のゴールデンタイム)

22 時～翌 8 時:アーカイブ枠

(委員の意見)「次の一手」などを出題する認定番組について、編成本数など変わらないのか。

(放送事業者)編成本数は変わらず放送する。

(委員の意見)アニメをうまく使って、将棋をやり始める子供たちを増やすような事ができたらいい  
ではないか。

(委員の意見)「3月のライオン」は今の子供たちは見たことがないと思うので、放送するのは  
良いと思う。

(放送事業者) 声優ファンやアニメファンをチャンネルに呼び込み、その直後に実際の対局番組  
を配置することで、そのまま対局を見てもらう流れを作りたい。

「3月のライオン」のアニメを見てルールを覚えた子供たちが成果を試す場として  
「J:COM 杯 3月のライオン子ども将棋大会」という子供向け将棋大会への参加を  
促し、モチベーションを高めてもらうという連携も図っている。

(委員の意見)今後は囲碁の『ヒカルの碁』もまたやれば良いと思う。

(放送事業者)放送前後の絶大な影響力を認識しており、いずれは取り入れていきたい。

以上